

松江市小中一貫教育の 5 年間のあゆみと今後の在り方について

〈概要版〉

松江市教育委員会学校教育課

1 趣 旨

平成 22 年度から全学園（中学校区）で実施している小中一貫教育 5 年間のあゆみを振り返り、成果と課題を明らかにして今後の在り方を探る。

2 小中一貫教育の目標

「学校・地域の教育諸課題を改善し、子どもたちの健やかな成長を図る」

3 導入の経緯

平成 17 年度の市町村合併により誕生した新生松江市にふさわしい「学校教育プラン」を作成する中で、不登校をはじめとする生徒指導上の問題や学力向上など今日的な教育諸課題の解決に向けて、幼児期から小中学校 9 年間を見通し一貫した教育や学校・家庭・地域が協働した地域ぐるみの教育の推進が不可欠であるとして「小中一貫教育構想」が検討された。

その後、小中一貫教育推進モデル校区を指定するなどして小中一貫教育を進め、平成 22 年 3 月に策定した「松江市小中一貫教育推進計画」をもとに、平成 22 年度から全学園で小中一貫教育を本格的に実施した。平成 25 年度からは副教育長を本部長とする「小中一貫教育推進本部」を設置し、特色ある学園教育の推進へと歩みを進めている。

4 小中一貫教育によって期待されること

- 子どもたちの健やかな成長
- 豊かな人間性と社会性の育成
- 新しい教育活動や地域活動の創造
- 教師の指導力の向上

5 主な内容

- 「4・3・2」の教育区分を基に幼児期から小中 9 年間の連続し一貫した教育課程を編成・実施する。 ～たての一貫教育～
 - ・小中教職員の共同指導体制の構築：めざす子ども像の設定、学園組織づくり等
 - ・小中 9 年間を見通した教育課程の編成と実施：小中一貫基本カリキュラム等

- 学校・家庭・地域が協働して、学校・地域の教育諸課題の改善を図り、地域で子どもを育てる学校・まちづくりを進める。 ～よこの一貫（環）教育～
- ・地域ぐるみの教育による学校教育の充実：地域推進協議会や学校支援地域本部等
 - ・活力あるまちづくりの推進：あいさつ運動、学園カレンダー等

6 成果について

- 1 学習や生活面における中1ギャップの改善につながった
- 2 小中教職員の共同指導体制が確立し、保幼小中教職員の共同体制への広がりが見られた
- 3 学園や学校を支援するよこの一貫（環）教育の充実が見られた

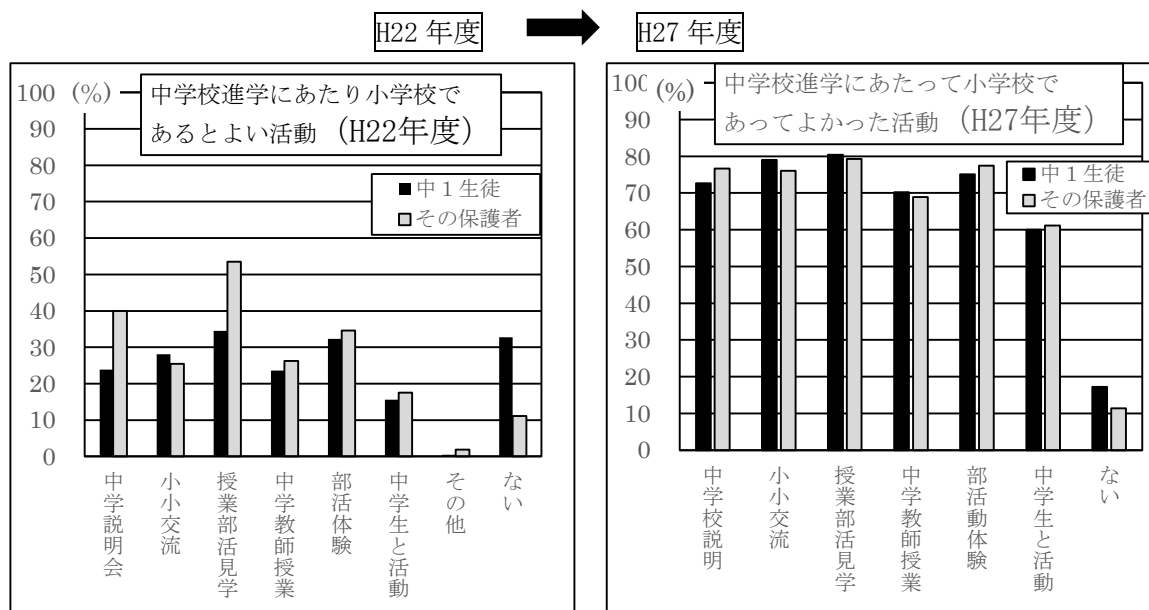
(1) 学習や生活面におけるギャップの改善

中学1年生及び教職員のアンケート集計結果等から、不安の解消や進学に向けた意欲の高まりが見られ、中期を重点としたこれまでの取組は、中1ギャップの改善に効果があったと言える。こうした効果は、各学園が6年生の中学校での授業や部活動体験、また生徒会役員や中学校教員からの中学校生活の説明会等の取組をした成果と考えられる。

〔データ1〕小中一貫教育検証アンケートの教職員調査

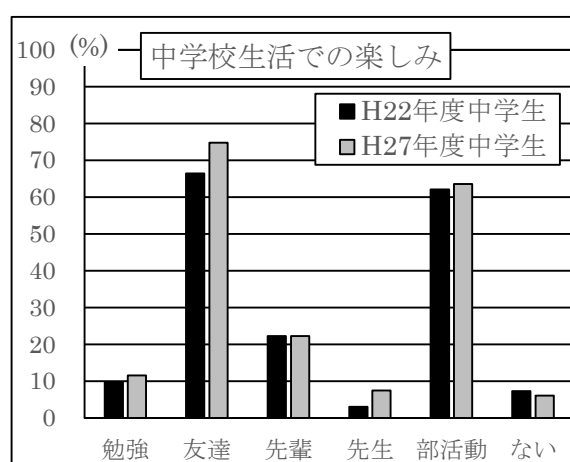
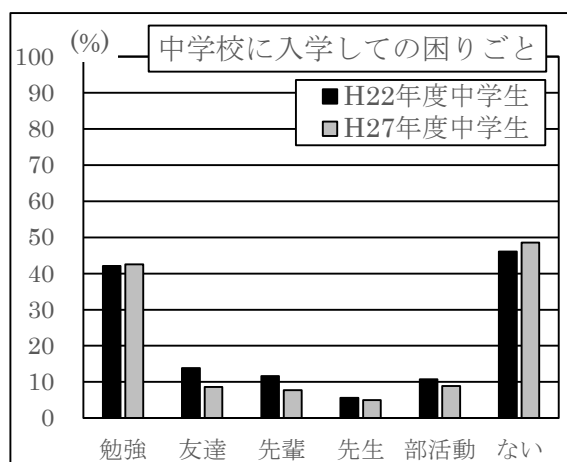
たての一貫教育の成果についてのアンケート項目	肯定的回答(%)
1. 中学入学前後の人間関係づくりや学習の不安の軽減に効果があった	85.7
2. 小中学校の児童生徒や学園内の児童の交流が進んだ	78.3

〔データ2〕平成22年度・平成27年度の中1生徒と保護者の意識（中1生徒・保護者アンケート）



（4つまで回答）

（肯定的回答：小小交流は小学校複数校の学園のみ）



※ 6～7月実施 ※各中学1年生各校1学級抽出。(複数回答可) ※数値は回答数を母体数で割った割合(%)

(2) 小中教職員の共同指導体制の確立と保幼小中教職員への共同体制の広がり

学園の「めざす子ども像」や「教育目標」の共通理解を示す集計結果、小中合同研修会や中学校体験授業等で小中教職員が共同して取り組む活動が円滑に実施されるようになったことなどから、小中教職員の共同指導体制の確立が認められる。

さらに、移行支援会議の開催、保幼小連携生徒指導研修会や「かしこい体づくり」研修会、中学生の保育園児との交流活動等を通して、小中教職員から保幼小中教職員の共同指導体制への広がりが見られる。

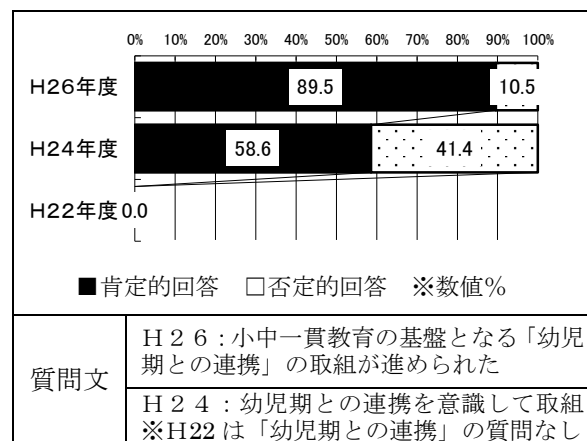
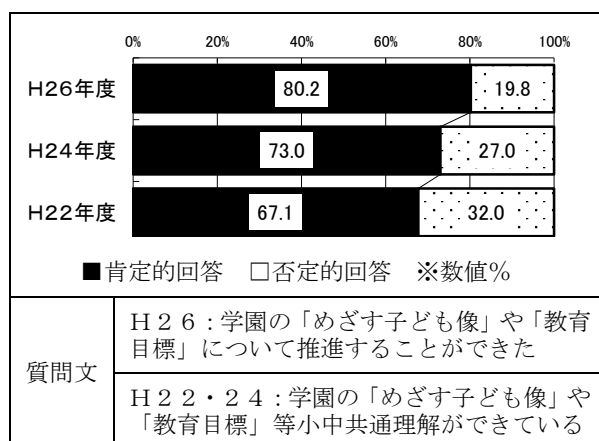
〔データ3〕小中一貫教育検証アンケートの教職員調査

たての一貫教育の成果についてのアンケート項目	肯定的回答 (%)
1. 保幼小連携に効果があった	78.7
2. 小中学校の教職員の連携が向上した	72.7

〔データ4〕

《1. 「めざす子ども像」「教育目標」について》

《2. 幼児期との連携について》

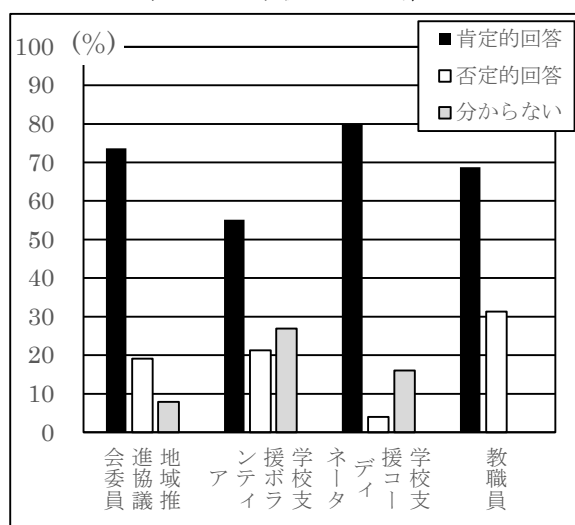


(3) 学園や学校を支援するよこの一貫(環)教育の充実

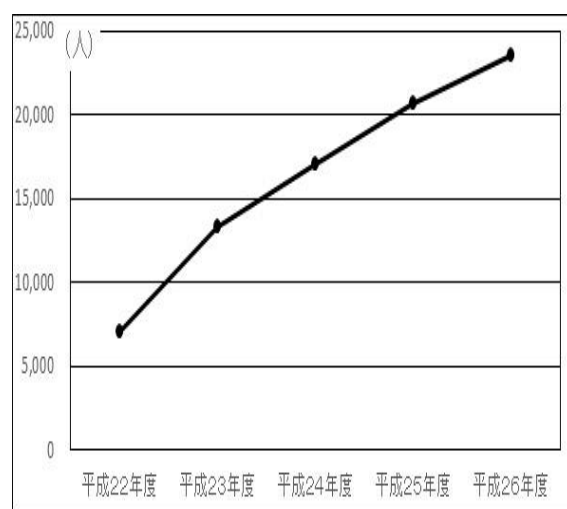
地域推進協議会の設置により地域ぐるみで子どもを育てる体制が確立し、学校支援地域本部の活動も活発になった。加えて学校支援ボランティアとして学園や学校教育に参画する地域の方が増え、学校教育が充実するとともに、地域と学校、地域と子ども、地域の方同士のつながりが深まり、よこの一貫(環)教育の充実が見られた。さらに、地域推進協議会会長等連絡会の定期開催により、学園同士の取組や地域推進協議会と教育委員会との情報共有ができ、特色のある学園の取組につなげることができた。

〔データ5〕 小中一貫教育検証アンケートより

《12. 地域の方の学校への理解が深まった》



○学校支援ボランティアの延べ人数の推移



7 課題について

- 1 教職員のアンケートや学力調査の結果から、「教師の指導力の向上」など小中一貫教育を活かした学力向上に課題がある
- 2 取組の経過に伴い「成果や課題」「柱となる取組」が見えにくくなっており、これらを明確にして教職員の意識の向上を図ることに課題がある

(1) 小中一貫教育を活かした学力向上

平成24年度版「松江市小中一貫基本カリキュラム」の中で、「小中一貫教育とは、小学校教育と中学校教育の独自性と連続性を踏まえた一貫性のある教育をいい、第一義的には、小中9年間の教育課程の構造的理解を通した教師の指導力の向上を目指す取り組みである。(西川信廣他著『小中一貫(連携)教育の理論と方法』)」をふまえ、各中

学校区の小中 9 年間を見通した教育の充実を図るとしている。

しかし、教職員のアンケートによると教職員の意識は「小中学校相互の教育課程や学習内容を意識した授業をするようになった」ことに成果が見られているが、教職員の指導力の向上や児童生徒の学力の向上に関しては、肯定的回答は半数にも満たない。

このことから、小中一貫教育で掲げている「教師の指導力の向上」による学力向上については成果が表れていないことが窺える。

〔データ 6〕 たての一貫教育の成果（小中一貫教育検証アンケート：教職員回答）

たての一貫教育の成果についてのアンケート項目	肯定的回答(%)
小中学校相互の教育課程や学習内容を意識した授業をするようになった	73.1
教職員全体の指導力が向上した	46.1
児童生徒の学力が向上した	41.2

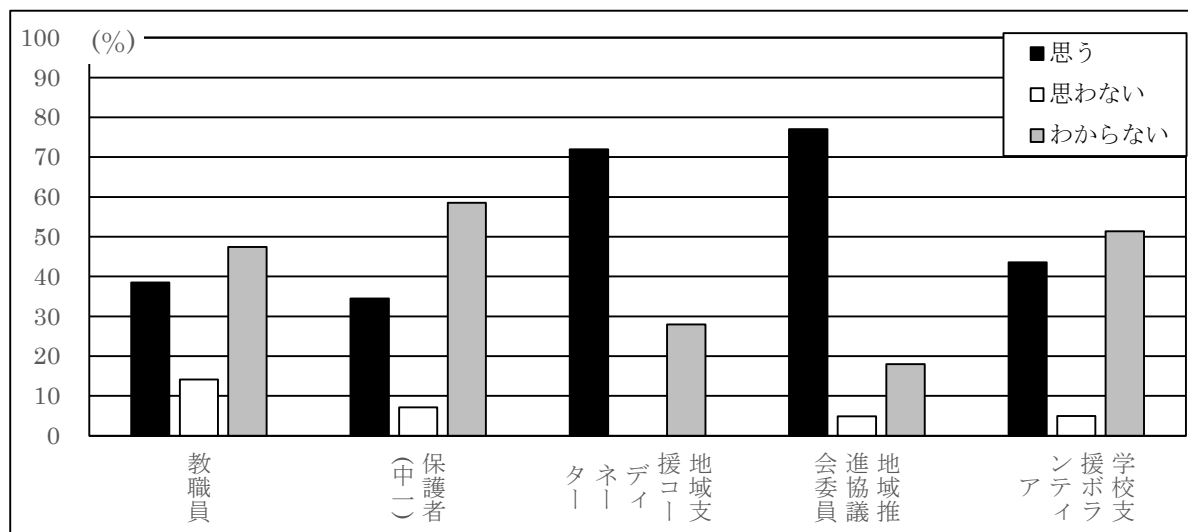
〔データ 7〕 全国学力・学習状況調査及び県学力調査の結果から（4 月実施）

教科 学年			平成 2 2 年度			平成 2 3 年度			平成 2 4 年度			平成 2 5 年度			平成 2 6 年度		
			松江	全国	差	松江	全国	差	松江	全国	差	松江	全国	差	松江	全国 目標値	差
国 語	小4		69.3	69.4	-0.1	69.5	69.6	-0.1	65.4	66.6	-1.2	63.8	69.0	-5.2	65.1	67.8	-2.7
	小5		70.6	70.0	0.6	71.7	71.1	0.6	74.6	68.8	5.8	72.7	72.7	0.0	69.3	66.4	2.9
	小6	A	83.3	83.3	0.0	70.9	71.5	-0.6	83.9	81.6	2.3	61.2	62.7	-1.5	74.4	72.9	1.5
		B	77.7	77.8	-0.1				58.7	55.6	3.1	48.8	49.4	-0.6	55.9	55.5	0.4
	中1		74.9	73.4	1.5	75.8	74.2	1.6	75.1	74.2	0.9	70.0	69.3	0.7	70.6	65.8	4.8
	中2		71.9	70.5	1.4	71.0	69.8	1.2	72.4	69.1	3.3	77.0	71.7	5.3	70.3	66.7	3.6
	中3	A	78.6	75.1	3.5	68.5	66.8	1.7	77.0	75.1	1.9	77.5	76.4	1.1	79.8	79.4	0.4
B		68.8	65.3	3.5	67.8				63.3	4.5	69.3	67.4	1.9	50.2	51.0	-0.8	
算 数・ 数 学	小4		73.2	74.2	-1.0	74.8	73.8	1.0	67.7	68.5	-0.8	69.3	71.3	-2.0	71.2	70.9	0.3
	小5		74.1	74.7	-0.6	78.1	77.1	1.0	66.5	64.8	1.7	66.2	66.2	0.0	66.6	66.6	0.0
	小6	A	71.3	74.2	-2.9	72.4	73.6	-1.2	74.2	73.3	0.9	75.1	77.2	-2.1	77.4	78.1	-0.7
		B	47.8	49.3	-1.5				59.0	58.9	0.1	57.4	58.4	-1.0	58.2	58.2	0.0
	中1		75.1	73.8	1.3	76.0	73.4	2.6	73.4	70.7	2.7	68.5	69.5	-1.0	63.1	66.6	-3.5
	中2		63.8	60.6	3.2	65.3	61.3	4.0	66.6	61.4	5.2	60.3	58.3	2.0	57.6	58.6	-1.0
	中3	A	65.6	64.6	1.0	63.0	60.6	2.4	64.9	62.1	2.8	64.1	63.7	0.4	65.6	67.4	-1.8
		B	44.1	43.3	0.8				51.4	49.3	2.1	42.2	41.5	0.7	57.3	59.8	-2.5

（2）教職員の意識の向上

教職員のアンケート集計結果では、「小中一貫教育の成果が分からない」という回答が教職員に多く見られた。教職員は「15 の春」を掲げながら取り組んでいるが、5 年が経過し小中一貫教育の活動が日常化したこと等で、「成果や課題」「柱となる取組」が見えにくくなっており、取組に対する教職員の負担感や意欲低下につながるものが懸念される。今後、これらを明確にし、教職員の意識の向上を図る必要がある。

〔データ 8〕《質問項目 小中一貫教育に成果があったと思いますか》



8 今後の取組について

今回の振り返りで成果と認められた事項の「中期を重点とした取組」「保幼小の連携」「よこの一貫（環）教育の取組」等については、今後も引き続き継続し、さらに効果的な取組となるように進めていく。

また、課題とされた取組に関しては、次のような点を重点的に取り組む。

(1) 小中一貫教育を活かした学力向上に向けて

各学園で授業公開に異校種の教職員が参観したり、小中一貫した学習スタイル等での授業が行われたりするようになってきたが、P.4 の課題をふまえ、これらの取組を教師の指導力の向上につなげ、児童生徒の学力向上を図る必要がある。そこで、毎年 2 学園を指定し開催している 小中一貫教育授業発表会を教職員の研修の場として充実させ、指導主事が今まで以上に指導助言に加わるなどして小中学校の教育課程や授業構造の理解につなげ、小中一貫教育を活かした教師の指導力向上を図る。

また、各学園において教科部会を充実させるなど教職員の資質向上につながる取組を推進したり、これまでの学園の学力向上対策を見直したり、接続期の学習状況や学習集団づくり等の情報共有の充実を図ったりするなど、学園の学力向上対策をより効果的なものとする必要がある。特に、中期の小学 6 年生から中学 1 年生への情報を共有する機会をさらに充実させ、きめ細やかな指導につなげていく必要がある。

小中一貫教育を活かした学力向上に向けては、特に以下の対策に取り組む。

- 1 小中一貫教育授業発表会の充実
 - ① 研究構想や授業構想の段階から、指導主事の指導助言を実施
 - ② 教職員の研修の場として開催方法の改善
 - ・異校種の授業参観を可能とする場や日程の工夫（特に隣接型や一体型）
 - ・多くの教職員が研修できる開催方法の検討（H30 年度以降の 2 巡目に向けて）
- 2 各学園の学力向上対策の推進
 - ① 教職員の指導力向上に向けた取組の実施
 - （例）ア．指導主事の訪問指導等を学園公開授業として、スケジュール等を事前に学園内で共有し、公開授業の常態化を図る
 - イ．学園教科部会を中心に小中教職員のペアを決め、教案づくりで協力したり必要に応じて乗り入れ授業を実施したりする
 - ② 学園の学力向上対策の見直しと情報共有の充実
 - （例）ア．学園内の小中学校で効果的であった学力向上の取組を共有し、学園内で発達段階に応じて実施する
 - イ．6 年の卒業前に小学校での学習の定着度を測る調査等を実施し、小中教職員が協力して春休みに個に応じた学習機会を設けるなどして、中学校進学後の学習につなげる

（2）教職員の意識向上に向けて

P.5 で述べたように多くの教職員が成果を実感できていないことから、意識の向上を目的とした研修会や今回の振り返りをもとにした成果と課題についての報告会を実施することで、教職員が主体的に小中一貫教育に取り組めるようにする。

また、各学園の柱や本市の重点として今後推進していく事項を明確にして取組の精選を図り、成果を意識した取組とすることで、意識の向上を図る。

教職員の意識向上に向けて以下の取組を実施する。

- 1 小中一貫教育に対する教職員の意識の向上を図る研修会の開催
 - ① 小中一貫教育の意義の確認や推進に向けた研修会を管理職や小中一貫教育担当者、転入教職員を対象として新たに実施する
 - ② 学園合同研修会等で今回の振り返りを基にした報告会の実施
- 2 各学園の柱を明確にした特色ある取組の推進
 - 各学園が学園の課題に対応した取組の柱を設定し、達成に向けて P D C A サイクルで取り組み、成果や課題を明確にして効果が実感できるようにする
- 3 今後の本市小中一貫教育の重点事項を明確にした取組の推進
 - ① 小中一貫教育を活かした「キャリア教育」や「ふるさと教育」の推進
 - 学園全体計画に基づく「地域で学び、地域で支える」地域ぐるみの取組と小中一貫した基礎的・汎用的能力の育成に向けた取組を進める
 - ② 小中一貫教育を活かした学力向上